

氏 名 : 高 田 健 人
学 位 の 種 類 : 博士 (健康科学)
学 位 記 番 号 : 研博第 36 号
学位記授与年月日 : 平成 29 年 3 月 9 日
学位授与の要件 : 学位規則第 4 条 1 号該当
論 文 題 目 : Grouped factors of the "SSADE; Signs and Symptoms Accompanying Dementia while Eating" and nutritional status: an analysis of older people receiving nutritional care in long-term care facilities in Japan.
論文審査委員 : 主査 吉 池 信 男
副査 藤 田 修 三
副査 草 間 かおる

論 文 内 容 の 要 旨

I はじめに

「認知症に伴う行動心理症状 : Behavioural and psychological symptoms of dementia (BPSD)」は認知症患者においてよくみられるが、先行研究より、認知症高齢患者の食行動に負の影響を及ぼすことで低栄養を導く可能性が示唆されている。我々は先行研究において、食事の観察から認知症高齢患者に特有な 11 項目の徴候・症状を見出し、「認知症高齢患者の食事中の徴候・症状 : Signs and Symptoms Accompanying Dementia while Eating (SSADE)」として定義した。本研究では、因子分析により SSADE 11 項目の因子構造を明らかにし、抽出された因子と栄養状態の関連を明らかにすることを目的とした。

II 研究方法と対象

日本国内の介護老人福祉施設 14 施設に入所する高齢者および家族に対して、施設の介護支援専門員を通じて本研究の趣旨を説明し、同意を得られた 259 名の認知症高齢患者を対象とした。施設に勤務する管理栄養士に協力依頼し、SSADE 11 項目について、調査用紙を用いてその頻度および強度を各 5 段階のリッカート尺度により評価した。さらに、基本属性および栄養状態の指標として body mass index (BMI)、食事摂取量、体重変化率、血

清アルブミン値のデータを収集した。データベースを集計し、SSADE 11 項目について因子分析により解析を行い、加えて抽出された各因子の因子得点と栄養状態の各指標との関連を分析した。

III 結 果

SSADE 11 項目の因子分析の結果、4 因子が抽出された。「活動性低下(Hypoactivity)因子」には「食事の失認(Dietary Agnosia)」、「傾眠(Drowsiness)」が分類され、BMI、血清アルブミン値と負の関連がみられた。「活動性亢進(Hyperactivity) 因子」には「興奮(Agitation)」、「妄想(Delusion)」、「徘徊・多動(Wandering)」、「早食い・詰め込み・丸のみ(Eating Too Rapidly)」が分類され、BMI と負の関連がみられた。「食への強いこだわり(Obsessiveness)因子」には「拒食(FoodRefusal)」、「偏食(Fad Eating)」が分類され、BMI、食事摂取量、体重変化率と負の関連がみられた。「食行動異常(Aberrant behaviours) 因子」には「失行(Eating Apraxia)」、「異食(Pica)」、「盗食(Stealing Food)」が分類され、食事摂取量と正の関連がみられた。

IV 考 察

抽出された SSADE 4 因子は栄養状態との関連がみられ、因子構造には妥当性があると考えられた。介護老人福祉施設において SSADE を認知症高齢患者の栄養アセスメントに活用し、的確な栄養ケア計画に反映させることによって、認知症高齢患者の低栄養を予防、改善することに寄与すると推察された。

論文審査結果の要旨

介護保険施設に入所する認知症高齢者 259 名を対象に、綿密に観察された「認知症に伴う食事中の徴候・症状」11 項目について、因子構造を明らかにし、抽出された 4 因子と栄養状態（食事摂取量、Body Mass Index、体重変化率、血清アルブミン）との関連を示した研究である。介護現場における適切な栄養管理を推進する上で重要な知見を、適切な統計手法と解釈により提示したことは、学問的にも実践的にも意義深い。また、本研究は、国際的な専門誌に受理され、論理性、妥当性並びに結果の意義などに関して評価が得られている。

以上のことから、本論文は博士（健康科学）の学位授与に値すると考える。